

# 港湾における海域環境改善の 取組みについて

---

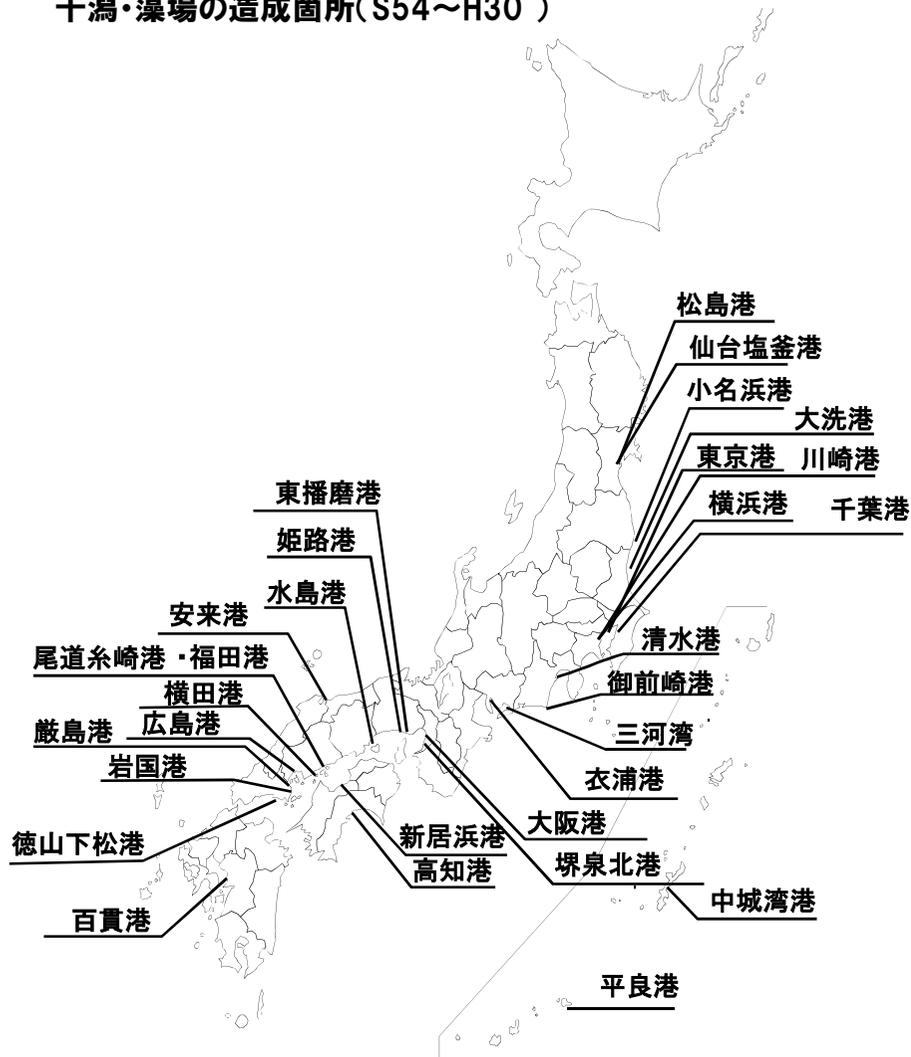
国土交通省 港湾局 海洋・環境課

令和2年8月4日

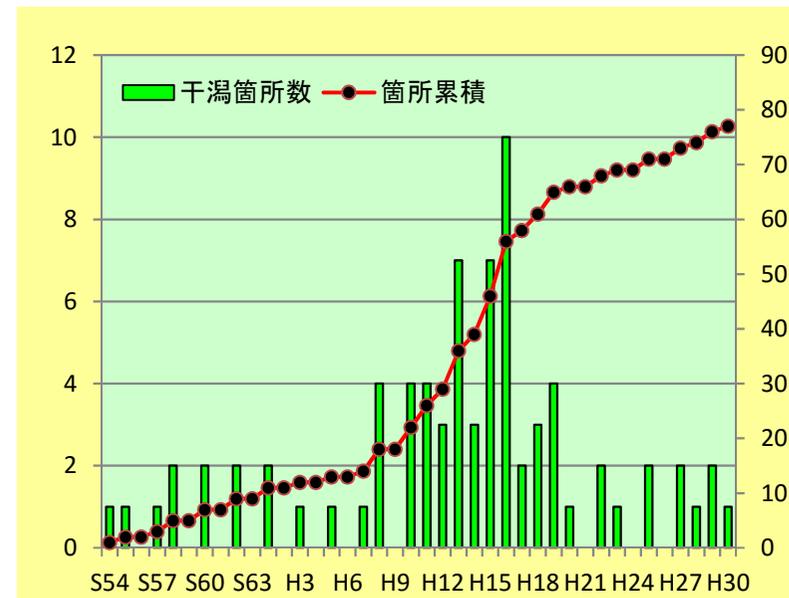
# 干潟・藻場の分布状況、整備及び保全・再生の推進

- 昭和54年から平成30年度末までに、全国の港湾において累計約80の干潟（海浜含む）・藻場を造成。
- 干潟造成には浚渫土砂等を有効活用している。

干潟・藻場の造成箇所(S54~H30)



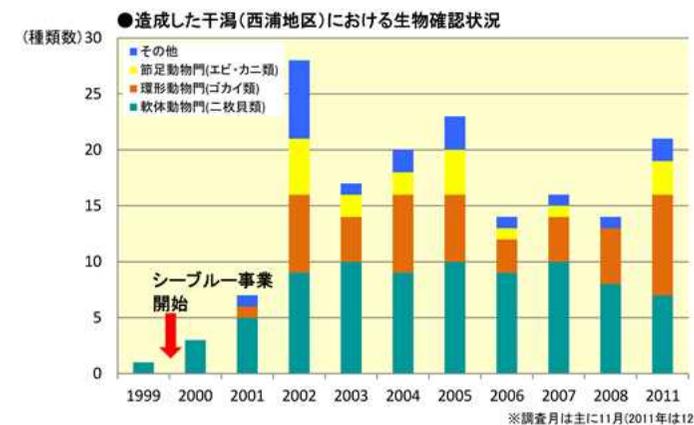
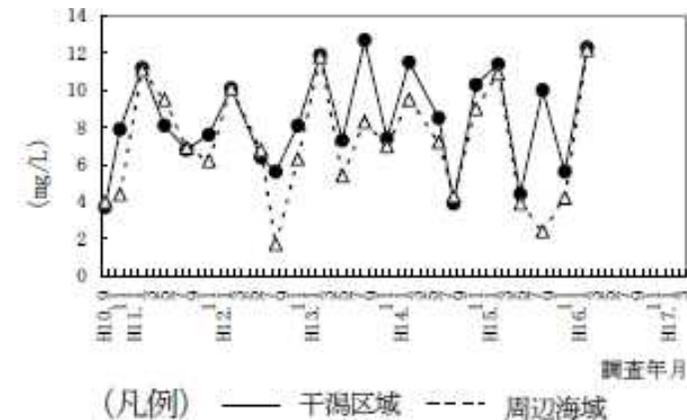
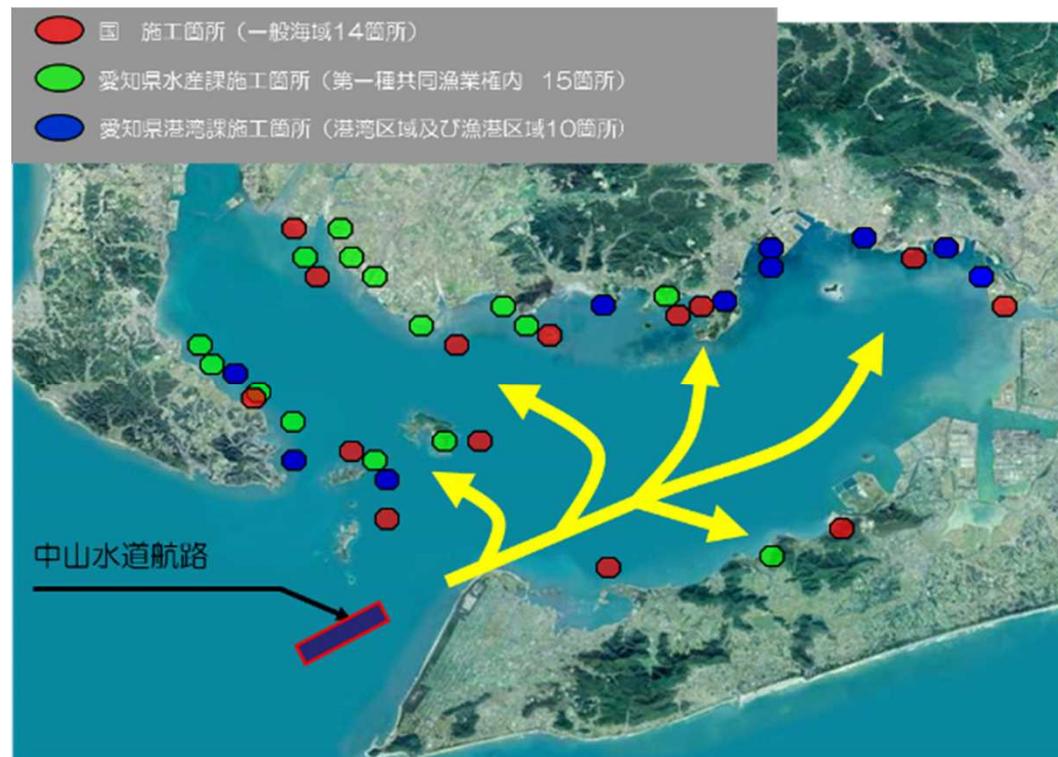
干潟造成面積の推移 (S54~H30年度)



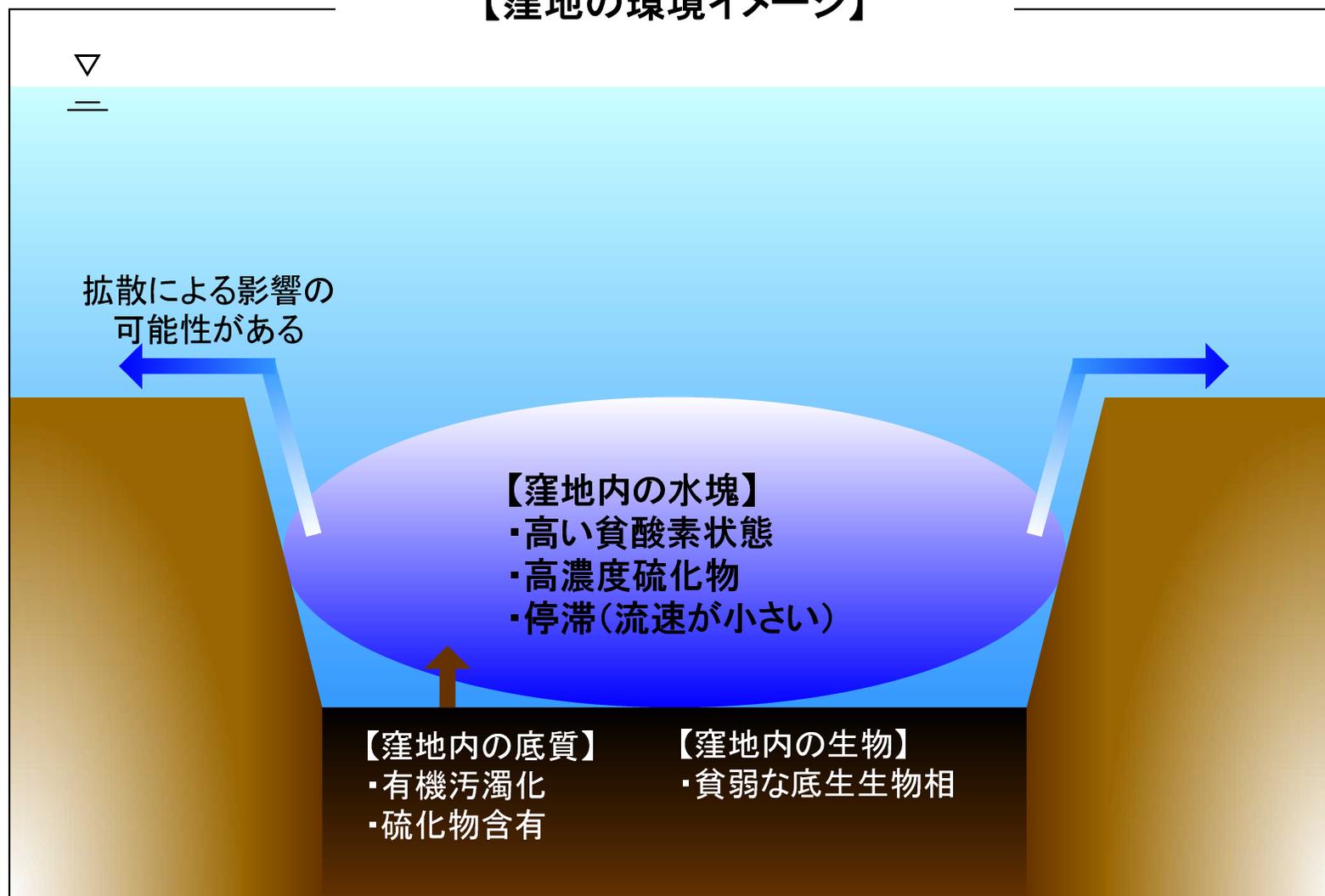
国土交通省港湾局調べ

## ▶ 浚渫土砂の有効活用による水質・底質の改善 ～三河湾の事例～

- 「中山水道航路整備事業」（国交省）、「漁場改良事業」（愛知県水産課）、「三河港内の干潟・覆砂事業」（愛知県港湾課）それぞれの関係者による合意形成により、中山水道航路の浚渫により発生した良質な土砂を活用し、干潟620haを造成。
- 整備期間：H10～H16年度、モニタリング：H10～H25年度
- 浚渫土砂によって造成した区域では、周辺海域と比較し、DO値（溶存酸素）が高くなる傾向にあり、水質・底質の改善や、底生生物の増加、生物の多様化といった改善効果が確認される。



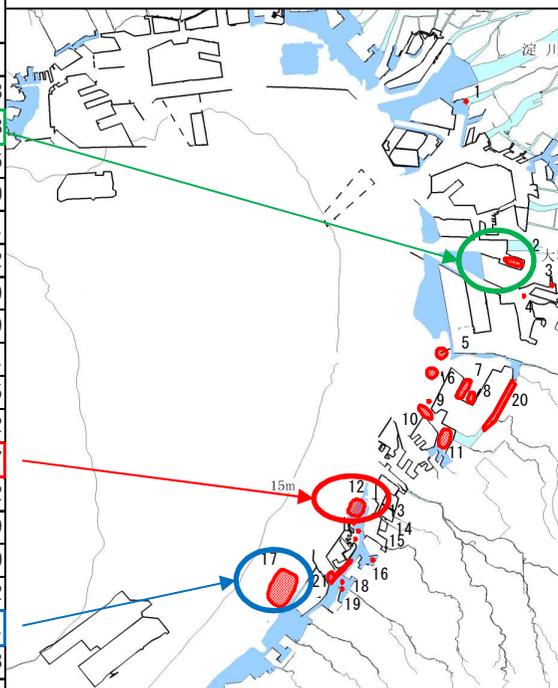
【窪地の環境イメージ】



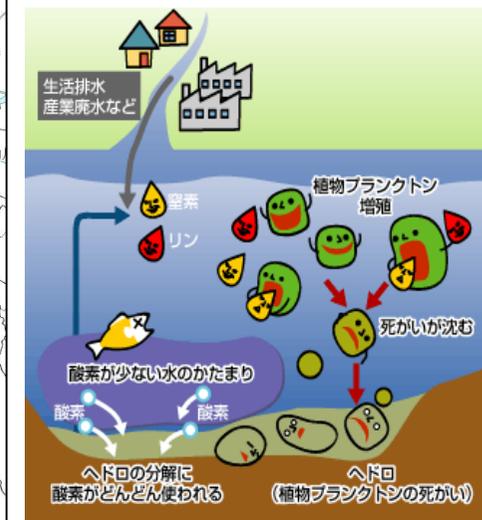
# ➤ 窪地の埋戻しによる水環境改善 ～大阪湾の事例～

- ・大阪湾には、過去に行われた土砂採取による大規模な窪地が21ヶ所存在する。
- ・窪地内に有機物が沈積し、貧酸素化が進行。この窪地が周辺海域の貧酸素化に影響を及ぼしている可能性があり、青潮の発生原因の一部と言われるようになった。
- ・窪地の修復として、優先度の高い北泊地、阪南2区沖、阪南4・6区沖の埋め戻しが行われてきた。

No.	位置	表面積	窪地内の平均水深	周辺海域の平均水深	窪地深さ	容積
		(㎡)	(m)	(m)		
1	正蓮寺川河口	88,000	8.3	7.3	1.0	8.8
2	北泊地	359,850	15.6	12.1	3.5	124.8
3	堺泉北港堺1区前	63,888	11.2	8.6	2.6	16.6
4	堺泉北港堺3区、4区前	19,360	21.0	15.3	5.7	11.0
5	コスモ石油原油栈橋	317,262	20.5	18.1	2.4	76.1
6	大ガスLNG第2栈橋	159,720	22.5	17.1	5.4	86.2
7	浜寺泊地1	299,475	23.2	17.5	5.7	170.9
8	浜寺泊地2	160,325	26.1	17.5	8.6	136.9
9	堺泉北港泉北1区南西角	11,493	26.5	15.1	11.4	13.1
10	堺泉北港泉北1区と助松ふ頭間	105,875	27.6	16.6	11.0	116.5
11	大津泊地	500,625	25.0	16.3	8.7	437.2
12	阪南2区沖	452,540	16.7	10.9	5.8	452.7
13	阪南港阪南2区奥北	63,525	12.4	7.8	4.6	29.2
14	阪南港阪南2区奥中	32,912	10.9	8.2	2.7	8.9
15	阪南港阪南2区奥南	108,900	12.9	8.4	4.5	49.0
16	岸和田旧港内	48,400	12.2	7.2	5.0	24.2
17	阪南港4区沖	1,443,905	23.2	12.7	10.5	1,516.1
18	貝塚市津田川河口沖1	23,595	10.0	6.9	3.1	7.3
19	貝塚市津田川河口沖2	34,848	10.9	8.5	2.4	8.4
20	浜寺水路	150,282	11.8	4.1	7.7	115.7
21	阪南2区、4区間	418,660	12.0	7.4	4.6	192.6
合計						3,602.2



大阪湾に点在する窪地



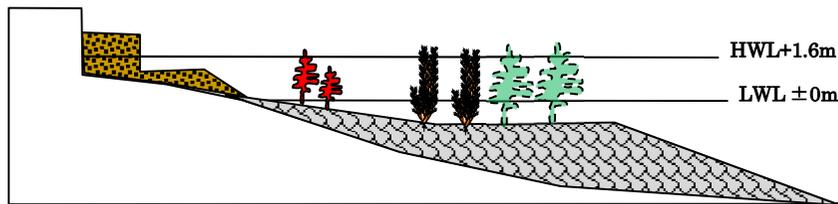
窪地による赤潮及び青潮発生メカニズム

# 環境配慮型（生物共生型）港湾構造物の整備

○護岸の一部に干潟や藻場等を付加する等、環境に配慮した生物共生型港湾構造物の整備を実施。取り組み事例は以下のとおり。

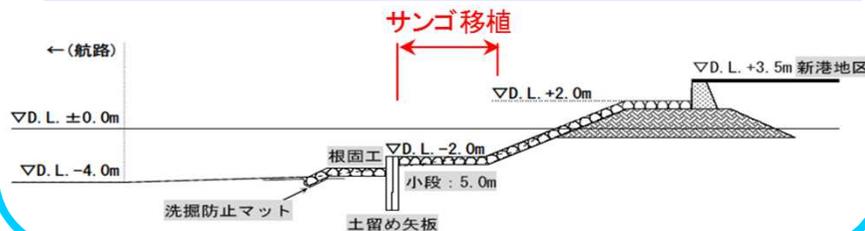
## 北九州港

護岸前面に干潟及び藻場を整備。多様な生物の生息を目標とする。



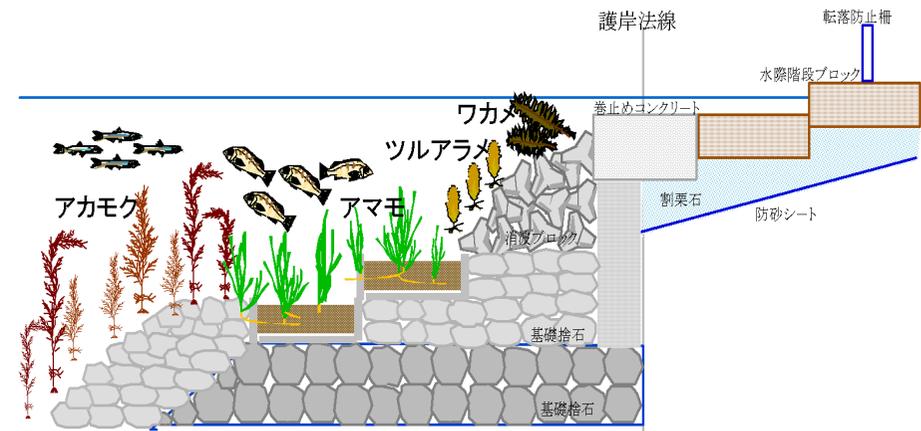
## 石垣港

サンゴの移植に適した小段を有する環境共生型護岸として改良。サンゴの着生・生育、生物の生息を目標とする。



## 秋田港

護岸の改良と共に、前面に「砂泥性藻場」「岩礁性藻場」を整備。多様な生物の生息を目標とする。

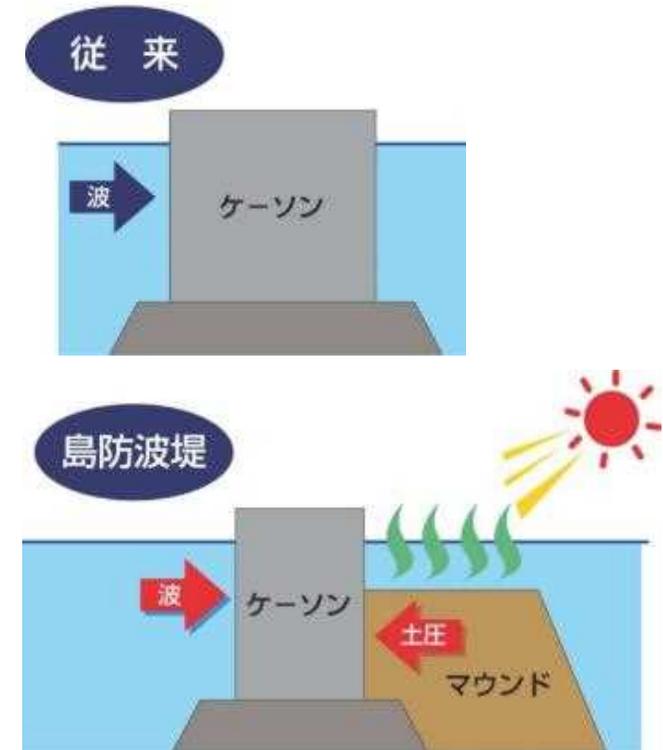


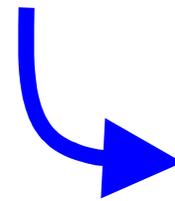
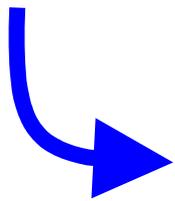
○釧路港においては、防波堤背後の盛土上の起伏ブロックへの藻場の形成、環境改善を目指し、防波堤整備（全長2500m）とともに防波堤背後に浚渫土砂を活用した盛土等を設置。

### 整備事例（釧路港）



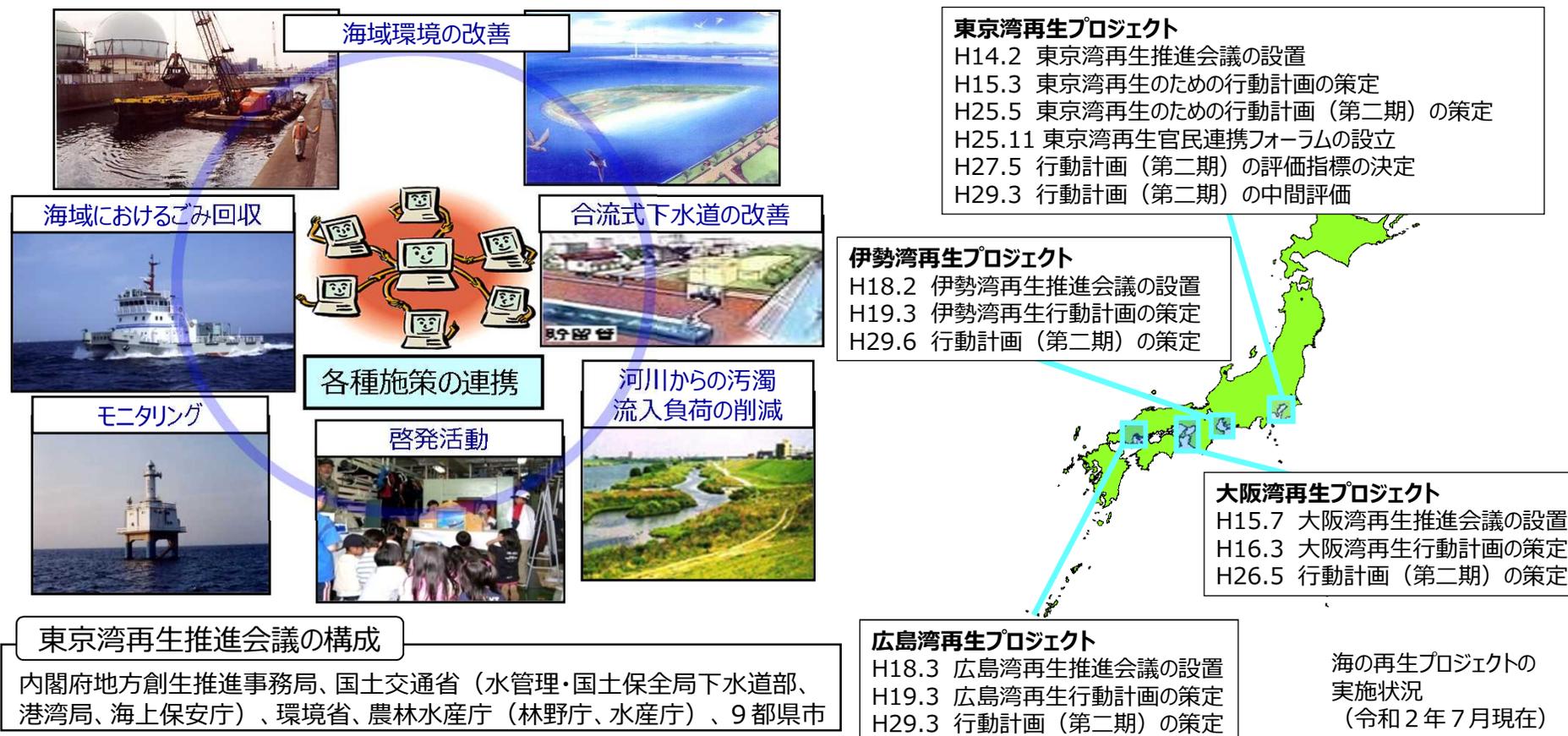
### 背後盛土イメージ





## ➤ 全国海の再生プロジェクト ～海域環境の改善～

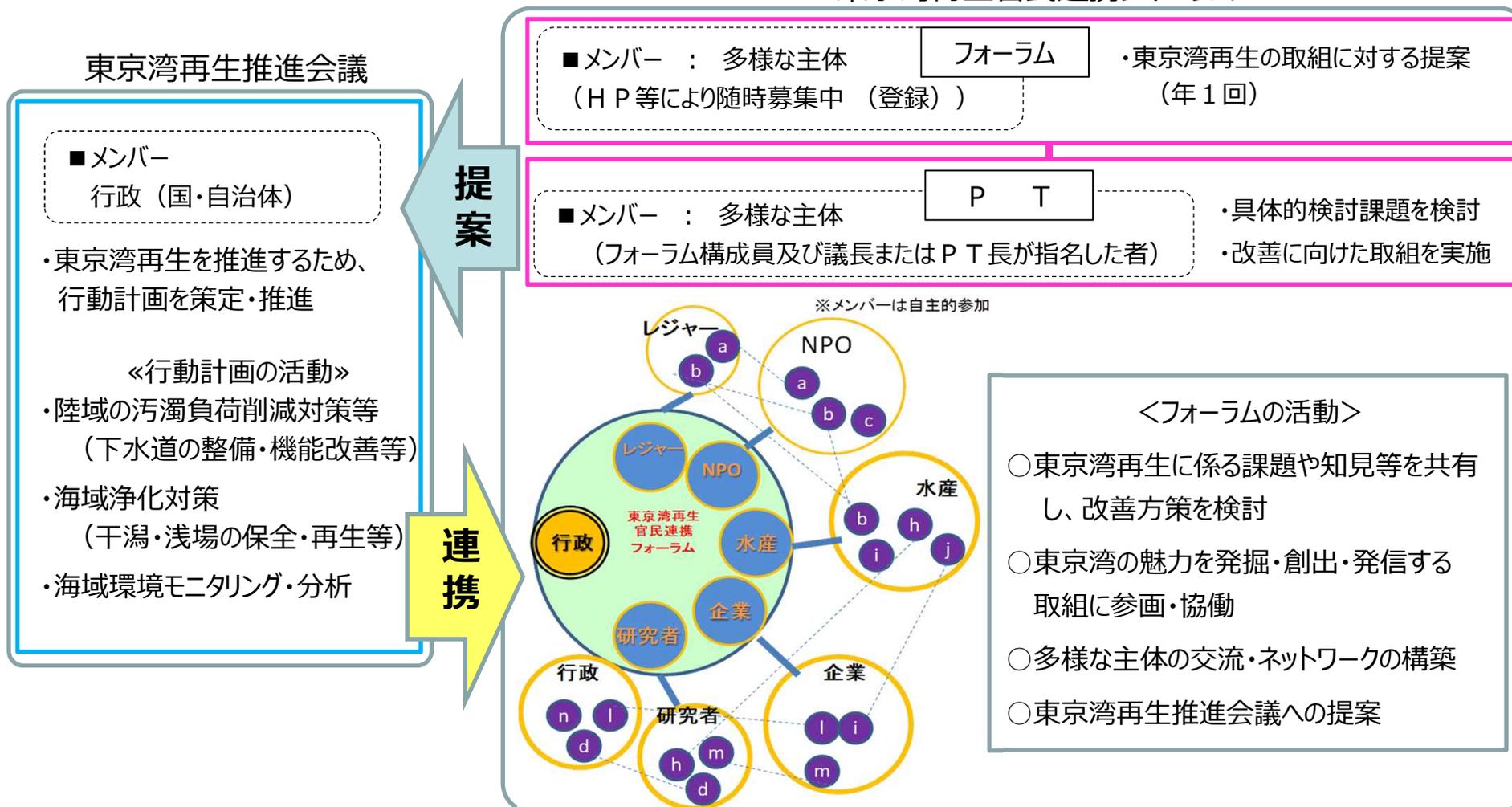
- 都市再生プロジェクト第三次決定（平成13年12月）及び国土交通省環境行動計画（平成16年6月）を受け、東京湾、大阪湾等の閉鎖性海域の水質改善に向けて、関係省庁及び関係地方公共団体等が連携して、水質環境改善のための行動計画を策定し、総合的な施策を推進。
- 東京湾では、平成25年5月に「東京湾再生のための行動計画（第二期）」を策定。同年11月23日に東京湾の環境改善に向けた活動や行動の輪を広げつつ、豊かな海への再生を目指し、企業やNPO等の多様な主体で構成される「東京湾再生官民連携フォーラム」を設置。平成27年5月に「東京湾再生のための行動計画（第二期）」の評価指標を決定。
- 大阪湾では平成26年5月に「大阪湾再生行動計画（第二期）」、広島湾では平成29年3月に「広島湾再生行動計画（第二期）」、伊勢湾では平成29年6月に「伊勢湾再生行動計画（第二期）」を策定。



# 東京湾再生官民連携フォーラム

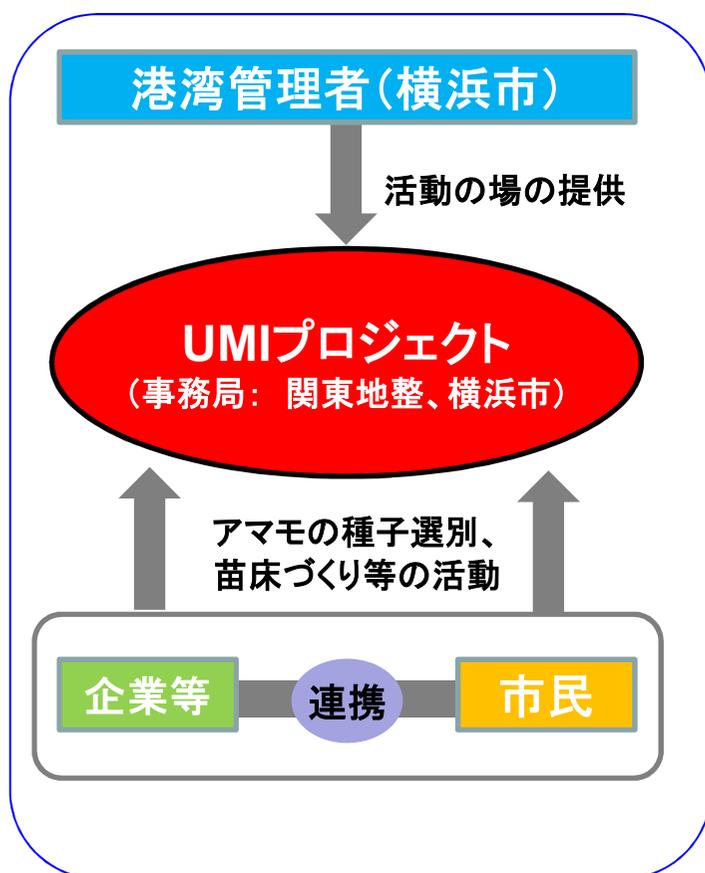
- 東京湾再生に向け、企業やNPO等の多様な主体で構成される「東京湾再生官民連携フォーラム」が平成25年11月23日に設立。
- 東京湾の環境改善に向けた活動や行動の輪を拡げつつ、豊かな海への再生を目指す。

## 東京湾再生官民連携フォーラム



## ▶ UMIプロジェクトについて

- 生物多様性を確保すると共に、その活動を通して、人々の海への理解や関心を高めることを目的として、東京湾の公共水域において、NPOや一般市民等の多様な主体と協働でアマモ場再生に取り組む企業を横浜市（港湾管理者）と関東地方整備局が募集（UMI：東京湾・海をみんなで愛する）。
- 実施者（令和元年度）：  
セブンイレブン記念財団、株式会社高千穂、東洋建設株式会社、マルハニチロ株式会社、東京ガスグループ



### 実施箇所(横浜市海の公園)



➤ U M I プロジェクトについて ～活動状況～

令和元年度の活動状況の写真



R1.4 アマモ移植活動



R1.6 アマモの観察



R1.6 アマモ場再生活動



R1.4 アマモの苗床づくり

## ➤ 東京湾大感謝祭について

### ○「東京湾大感謝祭」の目的

東京湾再生の取組を広く世の中の方々に知って頂き、多くの人を楽しみながら東京湾再生への活動に参加するきっかけとするとともに、大感謝祭を核とした他のイベントとの連携など、活動の輪を拡げること。

### ○東京湾大感謝祭2019

- ・開催日：令和元年10月26,27日
- ・ 於：横浜赤レンガ倉庫
- ・「東京湾再生官民連携フォーラム」の総会とあわせて開催

★主 催：東京湾大感謝祭実行委員会

★共 催：国交省関東地方整備局、環境省、  
東京湾再生官民連携フォーラム、  
東京湾の環境をよくするために行動する会  
(一財)みなと総合研究財団、  
横浜ポート天国推進連絡協議会

★来場者：約 101,000人

